

# 地域における体験活動を通して自己の生き方を考える ～自分探しの旅をしよう～

## 目標・ねらい

体験活動を通して自己有用感を持たせ、努力することの大切さや生きがいについて考えさせる。自己の生き方を真剣に見つめることにより、他者の支えや存在に感謝し、共生できる姿勢を育む。社会の一員としての役割、責任を考えることにより自他ともに尊重できる生き方を追求させる。

教育課程上の位置づけ  
道徳・総合的な学習の時間・学級活動

## 事前指導・経緯

### 地域連携活動 ～あなたの誇りを聞かせてください～

【働くことの意義】 資料1  
自分の希望する職業・関心のある職業に従事している方々に職業観や生きがい等のインタビュー活動を行う。

希望職種について  
調べ学習

仕事内容  
労働条件  
苦勞・喜び

インタビュー計画  
依頼  
移動手段・経路  
質問事項の整理

インタビュー先

宇宙開発事業団職員  
プロ野球選手、美容師  
テレビディレクター  
獣医、調理師、農業研究家  
カウンセラー、店経営者等



### 地域連携活動 ～プロの技を盗め！～

【勤勞の尊さ・誇り・礼儀】  
比較的労働力を必要とする職業を中心に市内事業所で3日間の体験活動を行う。

・一人1事業所を原則  
病院、美容院、保育所  
漁業組合、自動車整備工場  
スーパー、牧場等



実施計画

学習課題の把握  
職業内容の理解  
仕事内容打合せ  
3日間の体験活動  
体験レポート作成  
体験報告会

### 地域連携活動 ～自分らしく生きたい～

介護士、視覚障害者をゲストティーチャーに迎え、疑似体験を通して介助する側、される側の思いを語り合う。 資料2

体験

ブラインド・ウォーク(試行)  
視覚障害者の講話  
ブラインド・ウォーク(検証)  
介護士の講話  
感想発表交換会



体験

車椅子体験  
シニアポーズ体験  
感想発表交換会

### 学校間連携活動 ～夢を語ろう～

【わたしの誇り、仲間の誇り】  
将来に夢を持ち、その実現に向けてさまざまな学習を進めてきた。その集大成として、今の思い、将来への夢について語り合う。

内容

わたしの夢  
夢を支えてくれるもの  
理想とする生き方  
14歳の志



全校集会  
保護者・高校教諭参観

### 地域連携活動 ～みんな1つの生命だから～

三日間の福祉施設体験学習を通して、高齢者やさまざまな障害を持つ人々と「共に生きる心」について考える。 資料3

活動内容

・食事介助の手伝い  
・洗濯物の整理  
・入所者とのコミュニケーション  
・車椅子介助(散歩)



受け入れ協力施設

介護老人保健施設  
特別養護老人ホーム  
身体障害者療護施設  
知的障害者授産施設  
知的障害者通所更生施設

### 学校間連携活動 ～勇気を出して自分の道を～

現役高校生をゲストに迎え、先輩たちの生き方・考え方を通して、自分の生き方を見つめ直す。

出席者：本校卒業生10名  
(国公立・私立、普通・専門学科含め7校)  
本校3年生  
保護者・高校職員参観 資料4

内容

卒業生より学校紹介  
高校生になって感じる  
中高の学校生活・意識の差  
高校選択で大切にしたこと  
質疑応答  
参観者より(保護者・指導主事)

事前準備

・参加者抽出とアンケート依頼  
・生徒の現在の悩みや質問の把握  
・当日打ちあわせ(実施意図の共通理解)



## 家庭・地域・諸団体への広報活動

(各活動への参加の依頼・協力依頼・お礼)  
学級だより 学校だより  
活動後に感想やまとめの冊子を配布する。

## 実施内容

### 地域連携・学校間連携活動

～チャレンジ・マイプラン～

- ・3年間の体験活動で得たことをもとに、自らの学習テーマを設定し、4ヶ月間の活動をする。
- ・毎週水曜の午後実施。昼食後、清掃・学活をすませ、以降4時を最終として個々に活動する。

### 個々のテーマ設定（9月上旬）

- ・製作、調査、技術習得、体験活動の時間とする。
- ・卒業作品あるいは発表の形をもって終了とする。
- ・時間は20時間（約10週）

### 活動計画の立案（9月中旬～下旬）

- ・教師、関係諸機関の協力が必要な場合は、依頼をし計画の調整をはかる。
- ・特別な場合を除いて弾力的に対応できる活動計画を作成する。
- ・担当教師と綿密な打ち合わせをし、自分の活動の意図を理解してもらう。

### 活動内容（10月～2月中旬）

- 郷土をみつめ直す活動
- ・駅のトイレ清掃
- ・環境調査・ゴミ拾い
- ・地域の海や川の魚を知る

- 夢の実現をめざして
- ・福祉施設ボランティア
- ・パソコンでのプログラム製作

- 特技・興味関心
- ・イラスト
- ・ALT助手
- ・料理を通して国際交流
- ・ピアノ連弾
- ・アルトリコーダー演奏
- ・大型貼り絵
- ・手話
- ・点字



料理での国際交流



駅のトイレ清掃



手話の練習中



ALT 助手として小学校へ

### 関係諸機関との連携

- ・市内福祉施設
- ・ALT 派遣各小学校
- ・国際交流協会
- ・手話サークル「ひまわりの会」
- ・学区内2駅の駅員さん

## 事後指導

### チャレンジ・マイプラン報告会

報告会のまとめ（ワークシート作成）  
発表準備（パワーポイント作成）  
報告会  
報告会を終えての感想

### 生徒の感想より

トイレ清掃は心身ともに疲れます。手ががじかんで力が入らないこともありました。この活動を通して、手を抜かないで仕事することを学べたと思います。（駅トイレ清掃）  
何回も小学校に出向いて助手をしたけれど失敗はたくさんあります。（ALT助手）  
たくさんの体験を通していろいろなことに興味を持ちました。その1つが手話です。今わたしの耳が聞こえなくなったら... この活動でいろいろなことを考えました。（手話）

### 学校間連携活動

～卒業しても、チャレンジ!ボランティア!!～

小学校の卒業式準備のお手伝いをそれぞれの母校で実施する  
卒業後なので、自由参加とする



### 実施時間

・卒業式前日の  
8:30～15:00

### 内容

・各校の要望に従い、  
清掃・装飾・式場設  
営等の作業

### 成果

- ・3年間続いた活動の最終にふさわしい姿があった。
- ・53名中45名の参加があった。
- ・半日でも都合がつけば参加する生徒が多かった。
- ・「後継者が欲しいなあ」迎えてくれる3小学校で感謝の声が聞かれた

## 取組の評価

各体験活動は、独立しているものではない。常に「より良く生きたい」という生徒の願いを信じ、「かけがえのない自分がたった一度の人生をどう生きるか」という問いかけを繰り返していく中で、2年間かけて少しずつ生徒の心が変容していった。

関係諸機関との連携の際には、生徒の実態を伝え、まず活動のねらいを理解していただいた。そして、常に生徒を励まし、認めてもらうことを重視した。この結果、生徒の自己有用感が高まった。「私だけ」に向けられた笑顔、感謝、ねぎらいの言葉は、自分だけの宝である。自己有用感を持つことが、他者を認める一歩であると実感する。

連携とは、単に活動の協力・受け入れ態勢を整備・調整して実施することではなく、ありのままの生徒を受け入れてもらう心情的な協力なくしては成立しない。両者間に心情的な交流が生まれて初めて連携の意義がある。

二つの増大という社会的背景がある。職業教育や進路指導が、単に知識・理解としての指導であってはならない。自分を見つめ、将来に夢を持ち、向上したいと願う気持ちをはぐくんでいくことが、努力や辛さから逃げない若者を育てるために大切であると考え、「必要とされている自分」「夢のある人生」は、大小さまざまなハードルを跳び越えるための支えになってくれると思う。

卒業生の多くが、新しい環境になじみながら、そこで出会うさまざまなハードルを越えて行くことの充実感、挫折体験、揺れる思いを語ってくれる。卒業は、ひとつの節目に過ぎず、人生は続く。精一杯生きることこそ価値があると、彼らの姿を見るたびに思う。

資料 1 - 1 地域連携活動

～あなたの誇りを聞かせてください～

1 ねらい

自分の興味や夢をもとに、自分が将来希望する職業、あるいは、一番知りたい職業について調べる。その後、直接仕事場へ出向き、働く姿を見学し、職業観や生きがい等についてのインタビュー活動を行なう。

2 指導計画

- (1) 自分の知りたい職業について調べる。 (2時間)
- (2) 調べたことではわからないこと(この職業を選んだ理由・この仕事を通して感じるさまざまな思い等々)をインタビュー項目として整理する。 (2時間)
- (3) インタビューのお願いの電話を入れ、時間の調整をはかる。 (放課後等)
- (4) 職業インタビュー実施(「総合的な学習の時間」の日課に併せて、午後2時間程度)
- (5) 報告書の作成 (2時間)
- (6) 冊子にして配布(朝読書の時間を利用して黙読)

3 主なインタビュー先 ( )内希望職業 生徒数53

ジャパンアカデミー (システムエンジニア)	総合病院 (看護師)	自動車販売会社 (カーデザイナー)
不登校相談員 (カウンセラー)	新聞社 (新聞記者)	保育園 (保育士)
ヘアサロン (美容師)	石油給油所 (ガソリンスタンド店員)	消防署 (消防士)
身体障害者療護施設 (介護士)	漫画家 (漫画家)	スペイン料理レストラン (レストラン経営者)
警察派出所 (警察官)	農業総合研究センター (品種改良研究員)	CTC千葉テレビ放送 (TVディレクター)

資料 1 - 2 職業についてのアンケート

身近な職業 Question 10 (インタビュー用)

- Q1 調べた職業 ( )  
たずねた人 ( )
- Q2 勤務時間と仕事の内容 ( )
- Q3 一日の仕事の実態 ( )
- Q4 必要な免許や資格 ( )
- Q5 資格や免許の取得方法 ( )
- Q6 この仕事が辛いときはどんなとき ( )
- Q7 この仕事でうれしいこと・楽しいこと ( )
- Q8 この仕事に向く性格や能力は? ( )
- Q9 この仕事を選んでよかったと思うのはどんなとき ( )
- Q10 これからその道を目指そうとする私へのアドバイス ( )

～あなたの誇りを聞かせてください～

私は、将来カウンセラーになりたいと思っています。それで、私は 先生にインタビューをさせていただきました。

本来は30分だったインタビューも1時間30分もお話を聞かせてもらいました。その中で、私の心に一番残った言葉は「カウンセラーの仕事が大好き」です。一番うらやましいと思ったのは、自分の今していることにととても満足していること。自分の大好きなことをやれるなんてとてもステキなことだと思います。そして、「好きだからこそ極めていきたい!」と思い生まれてくる向上心・チャレンジ精神は、計り知れないと思います。先生のお話を聞いていると、おおげさに言ってしまえば「死ぬまで挑戦し続ける」という気持ちがすごく伝わってきます。そして、その気持ちを原動力に行動し続ける先生の行動力もすごいもので、憧れてしまいます。

私も先生のようになりたいと思うし、また「いつか先生を超えていける人間になりたい!」なってみせる!」と思います。

貴重な体験をすることができてとても幸せです。

スペイン料理レストランに行き、「すごいなあ」と思うことがたくさんありました。まず、材料がすごいんです。魚介は港が近いので新鮮なんだそうです。しかも、野菜やトマト、きゅうりなど、無農薬の自家栽培だそうです。私は、食材にまで手をかけてやるなんて、「すごいなあ」と思いました。

年に1回スペインに行き、食材、チーズや生ハムなどを自分で見て輸入するそうです。そのスペインに行ったときに、お店に寄りおいしい料理があると、レシピを見せてもらったりして、お店のメニューを増やすそうです。材料1つ1つにこだわりがあって「すごい」と思いました。

料理は好きでなければならぬし、興味をもって、しかも自信をもってやらないといけないなど、たくさん教えていただきました。私は知らないことばかりなので、驚いてばかりでした。

これからの自分についてよく考えて、もっともっと料理を好きになって、料理のことについて知りたいなあと思いました。

1つだけ心に残ったことがあります。それは、有藤さんが顔面にボールを受けて、試合に出場できなかったという所でした。

実は、ぼくも今ひじが痛くて、練習や試合に出れなくてとてもくやしいです。

ひじがこわれても練習をしたいと思っています。

これからも一生懸命野球をやりたいと思っています。

## 資料 2 - 1 地域連携活動

### ～自分らしく生きたい～

- 1 ねらい
  - (1) 福祉活動の意義について考え、障害者や高齢者と「共に生きる」気持ちを持たせる。
  - (2) 疑似体験や講話を通して、相手の立場や思いを理解しようとする気持ちを持たせ、自分ができることについて考え、実践できる態度を養う。
- 2 指導計画(20時間)
  - (1) ガイダンス(活動の意義とねらいの理解)(1時間)
  - (2) 福祉のキーワードについて調べ学習をする。(1時間)
  - (3) 障害者や高齢者の抱える問題について考える。(3時間)
  - (4) VTR「車輪の一步」を視聴し、住みよい社会について施設面・心情面から考える。(5時間)
  - (5) 疑似体験をする。『3年生6月実施』  
(ブラインド・ウオーク、視覚障害者・介護士の講話、「ふり回り」)  
(事前指導を含め4時間)
  - (6) 疑似体験をする。『3年生6月実施』  
(車椅子体験、シニア・ポーズの装着による動作体験、福祉協議会によるインストラクトおよび講話、「ふり回り」)(事前指導を含め5時間)
  - (7) 総括 学習全体を通して感じたことを発表し合い、思いを共有する。(1時間)
- 3 疑似体験実施計画

ブラインド・ウオーク体験		車椅子・シニアポーズ体験	
9:30~10:00	自分で考えた介助でブラインド・ウオーク	9:45~10:00	全体会(講師紹介・会の目的説明)
10:00~10:30	視覚障害者の講話 日頃感じている思いの交換会と正しい介助について	10:00~11:00	車椅子体験 操作方法の説明 補助する側、される側の体験 階段での補助 「ふりかえり」
10:30~11:00	教わった方法でブラインド・ウオーク	11:00~12:00	シニア・ポーズ体験 用具の意味・装着の説明 与えられた課題で体験 「ふりかえり」
11:00~11:30	介護主任ヘルパーの講話		
11:30~12:00	ゲストを囲んでふり回り思いを語り合う会		

- 4 成果
 

体験が、その場しのぎで終わらないための工夫として、視覚障害者の方の講話を取り入れた。一方的な講話でなく、対話形式で話が進められ、障害者の思いや明るくエネルギッシュな生き方に深く感銘を受けた生徒が多数いた。

疑似体験は、技術の伝達・理解にねらいを置くのではなく、障害者と共生するために「自分には何が出来るか。」にねらいを絞ることにより、個々の生き方や価値観を見つめ直す機会が持てた。

## 資料 2 - 2 活動を終えて

### ～自分らしく生きたい～

#### 講師について思ったこと

「目の不自由な人は、毎日が不安。しかし、生きることは宿命であり、楽しみでもある。」なぜ、そのようなことが言えるのかわからなかった。今まで、苦しいこと、嫌なことをいっぱい感じてきただろうに。私には耐えられない。周囲のことが見えなくて、いじめにあっていたら。それなのに、 さんはすごいと思う。

楽しみは求めればよい。努力すれば健康な人と同じことができる。

前向きすぎて、私の考え・思いをはるかに超えていました。

#### 講師について思ったこと

介護・援助をする時に、最初にぶつかるのは「コミュニケーション」という壁。

「心を開いてくれなくて、相手の気持ちがわからない。」ともおっしゃっていました。「コミュニケーション」という言葉に隠されている、深い深い意味を考えさせられました。

このような仕事は、「心」が重要なのかなと思いました。揺れ動く心で何もかもが決まっていく世界なのかもしれない。

講師から教わったことを、今後、日常生活でも活かしたいです。

自分の心も相手の心も大切にしたいです。ありがとうございました。

～みんな1つの生命だから～

1 ねらい

- (1) 高齢者や障害者に対して正しい認識を持つとともに、ボランティアについて前向きな考えをもった生徒を育成する。
- (2) 疑似体験で学んだ知識や思いを活かし、福祉施設での体験を通して、自己課題を持ち、主体的に活動に取り組みさせることにより、障害者や高齢者と共に生きる心を育てる。

2 指導計画(28時間)[3年生2学期実施]

- (1) ガイダンス(福祉体験学習のねらいと意義の理解) (1時間)
  - (2) 体験先の決定と個人の学習課題の設定 (1時間)
  - 代表者事前打ち合わせ (放課後)
  - (3) 打ち合わせ事項の伝達と具体的な活動計画の立案 (2時間)
  - (4) マナーおよび事前指導 (1時間)
  - (5) 3日間の福祉施設体験学習の実施 (18時間)
  - (6) ふり返り(個人感想文作成後、発表会) (2時間)
  - (7) 体験レポートの作成 (3時間)
- 事後 レポートを各福祉施設に届ける。

3 福祉体験先施設と主な実施内容

体験時間：原則として9：00～15：00

体験先	生徒数
介護老人保健施設	7名
介護老人保健施設	8名
養護老人ホーム	7名
特別養護老人ホーム	5名

体験先	生徒数
身体障害者療護施設	5名
身体障害者療護施設	10名
知的障害者授産施設	4名
知的障害者通所更生施設	7名

高齢者施設では、主に高齢者とのコミュニケーション・食事の介助を中心に実施する。

障害者施設では、入所者のスケジュールに合わせて一緒に活動する。

4 実施上の留意点

福祉施設の特性と機能を理解し、自分の課題に合った体験施設を選択させる。

5 成果と課題

疑似体験学習の後だったこともあり、それぞれに「自分にできること」(日常・将来)を見つけるための活動ができた。

体験施設の数の関係で、1施設の生徒数が施設の希望より多少多めになってしまった。

**福祉体験学習報告書**

施設名 介護老人保健施設 2組 氏名

学習課題 選んで仕事をし、福祉の大切さ、大変さを学ぶ。

仕事内容	時間	メモ	感想は...
7:00 申し送り	申し送り	部屋の掃除	<p>「大変な仕事に思いますが、その人の気持ちや生活の考え、行動に尊重を心がけていきたいと思います。」</p> <p>私はこの体験を通して、高齢者や障害者に対する思いがけずの優しさを感じました。自分も高齢者や障害者として生きていくことができればいいなと思いました。</p> <p>2週間ほど施設で生活する中で、自分も高齢者や障害者として生きていくことができればいいなと思いました。</p> <p>2週間ほど施設で生活する中で、自分も高齢者や障害者として生きていくことができればいいなと思いました。</p>
9:10 オリエンテーション	洗面・口腔・整容の介助	洗面・口腔・整容の介助	
10:10 ニーズ交換	おやつ介助	おやつ介助	
10:30 施設見学	*仮設想定 避難訓練	おやつ介助	
11:00 昼食介助	昼食介助	昼食介助	
11:10 入浴介助・ドライヤー	*仮設想定	入浴介助	
11:00 更衣介助	説明	ドライヤー・更衣介助	
11:30 仮設想定(15分ほど)	説明	仮設想定	
13:00 終了	終了	終了	

**自分の気づき**

- 高齢者が大変な仕事に思いますが、その人の気持ちや生活の考え、行動に尊重を心がけていきたいと思います。
- 私はこの体験を通して、高齢者や障害者に対する思いがけずの優しさを感じました。自分も高齢者や障害者として生きていくことができればいいなと思いました。

**学習の体験**

- リハビリの説明時に、自分も体験しました。初めて体験したリハビリの動作が、思ったより大変でした。でも、スタッフのサポートのおかげで、最後までやり遂げました。
- 高齢者や障害者の生活の様子を、自分も体験しました。自分も高齢者や障害者として生きていくことができればいいなと思いました。

**福祉施設を巡って...**

2週間ほど施設で生活する中で、自分も高齢者や障害者として生きていくことができればいいなと思いました。

## 資料4 - 1 学校間連携活動

### ～ 勇気を出して自分の道を～

#### 1 ねらい

- (1) 高校生活の一端に触れ、夢を追い続けることの大切さと個性や能力を生かした生き方について考えさせる。
- (2) 現役高校生と共に、進路時期の揺れる思いについて率直に語り合う。

#### 2 指導計画(5時間)

事前 卒業生にアンケート送付・回収・出席の依頼

- (1) ガイダンス(会の持ちかたの意義についての理解) (1時間)
- (2) 夢を実現させるために今悩んでいること・現役の高校生にぜひ聞きたい思い等をまとめ質問事項の整理 (1時間)
- (3) ディスカッション 『3年生2学期に実施』 (2時間)
- (4) 「ふり返し」と共有 (1時間)

#### 3 実施計画(当日の流れ)・・・保護者会の日に併せて実施

9:00~10:00 卒業生との打ち合わせ(会の主旨と流れの確認)[担当者]

10:00~11:00 ディスカッション

11:00~11:15 参観者より感想

#### 4 実施上の留意点

- (1) 今夢を持って未来を見つめている中学生が、実現したいと願う思いに応えるような発言を心がけてもらう。
- (2) 高校生活のメリット・デメリットに触れながら、その中でどう生きていくかを、自分の体験を交えて語ってもらう。
- (3) 高校受験の方法や面接等については、一切話題にしない。受験方法論よりも、みんな同じ悩みや揺れる思いの中で、大人になっていくのだということを実感させることに主眼を置く。

#### 5 評価(生徒の感想より)

自分が思っている以上に自立しなければならなかった。自分に合う高校、自分自身が成長できる学校に行きたいと思う。この会に来てくれた人たちは、自分の学校に誇りを持っていると思った。私もそうなれるといい。

進学するということは、それだけ大人に近づくということ。そのときにどんな大人の自分であるか。今、たくさん悩んで将来の姿というものをどんどん形にしていって、最終的にその姿になっているようがんばりたい。

大人になるってどういうことなのか。よくわからないけど、いくつになっても自分というものをしっかり持っていなければいけない。ほとんどの高校生が言っていた。これを忘れず、高校を選んでいきたい。

## 資料4 - 2 高校生へのインタビュー

### 1 あなたの高校について、次の観点について紹介してください。

#### (1) セールスポイント(自慢したいこと・特色など)は何ですか。

わりと自由な部分が多く、窮屈な学校生活にはならないかと思います。でも、羽を伸ばしすぎるとけじめがつかなくなるので、節度を持ち、やれるべきことはやりましょう。すべて自分で判断をしなければなりません。

#### (2) どんな目標、どんな高校生活を望んでいる人にあった高校ですか。

個性的な人が集まると思うので、勉強以外にも趣味や特技がある人、多少机に向かって勉強するのが苦手で将来のために進学を目指している人に最適だと思います。

#### (3) あなたの高校に進みたいという後輩に「これだけは知っておいてほしい」ということがありますか。それは、どんなことですか。

個性的で自我の強い人が多く、結構自由主義なので、色々な毛色の人があります。それぞれ目的や目標に大きな違いがあり、よくなるかならないかは全て自分の判断次第で、のまれるかのまれないかも自分次第です。

#### (4) 「こんな考えで来たらダメだ」と、後輩に忠告したいことがありますか。どんなことでもいいから書いてください。

やっぱり、ある程度の目標を高校生活の先に見定めておかないと、入ってからは「言われなくても勉強やらない」とか言う人も多数いて、他の人にのまれて自分もやらずに楽な道ばかりを選んでしまう人は後で大変なことになります。

#### (5) これまでの高校生活を振り返ってみて、予想と違ったことや期待に反したということがあれば、書いてください。

最初は、皆競争心とかが強く競い合う高校生活になるのかと思っていました。しかし、中学校の時みたいに口うるさく言われなくていいこと、言われなくてもいいやとか、私だけじゃないみたいな気持ちが次第に芽生え、自分は入った当時の目標を忘れ墮落していることに気がきました。言われなくてもいいやという気持ちは中学の時から全然成長していない証拠でした。今考えると、言われなくても自分で出来るのが高校生だなと思い、そう思った自分が急に恥ずかしくなりました。

#### (6) 中学時代と現在の生活とを比べてみて、いちばん違っていると思うことは何ですか。

やっぱり義務教育時代に比べると、色々なことからの開放感が強くなり、自由になるのはとてもよいことだけど、あらゆる面での示しがつかなくなる時があると思います。高校生活は、少しだけ周りの人に頼らない、これから自立して大人になるための第一段階になると思います。困惑することが多いと思います。

### 2 受験勉強では、こんなことに力を入れたらよいということがあれば教えてください。

どうしても自分ひとりじゃできないという人は、しっかりやる人にくっついて、喋らずに集中してやるのがよいと思います。一緒に勉強できる環境をつくることは、意外と集中してできますよ。あと、やりたいものを学校で決め、家でしっかりやってくる。

### 3 受験生の頃を思い出しながら、あなたの経験から、または、あなたならどうするか、次の点についてアドバイスしてください。

#### (1) 親子の間で第一希望の選択に食い違いがあるとき、どう解決するのがよいと思いますか。

やっぱり、自分の人生だから自分の生きたい道に進むべきだと思います。親を説得させるにはやっぱり志望の動機を明らかにして、強い意思表示をした方がよいと思います。もし、ちゃんと理由がないのならば、親の言葉にも耳を傾けてみては？

#### (2) 高校選択で一番大切なことは何ですか。

やっぱり目先のことでなく、そのもう少し先にも見通しをつけた方がよいと思います。高校に入ってから決めるのでは、少し選択肢が絞られてしまうんですよ。やりたいことを見つけるのは難しいんですけど、何か好奇心を持ったものはどんどん挑戦してください。挫折しても好きだって思えるものは必ずあるはずですよ。